

ヤマハがターミナルアダプタ分野に参入

■ I S D Nの能力を最大限に引き出せる S C S I対応のターミナルアダプタを開発

ヤマハ S C S Iターミナルアダプタ『STX1』

新 発 売

1992年9月

ヤマハ株式会社

本社：静岡県浜松市中沢町10-1

社長：上 島 清 介

当社は、I S D N（総合デジタル公衆回線網）の持つ高速デジタル通信の性能を最大限に活用して、コンピュータデータなどの送信を実現する、ヤマハ S C S Iターミナルアダプタ『STX1』を、10月1日(木)からシステムハウス向けを中心に発売いたします。

〈『STX1』の概要〉

『STX1』はコンピュータとその周辺機器（各種外部記憶装置、各種入出力装置）の間でデータをやり取りする際、I S D N (2B+D)の高速データ転送を最大限活かすことができる S C S I規格のインタフェースを採用したターミナルアダプタです。

また、本製品はアナログ端末のターミナルアダプタ機能も持っており、データ転送をしながら同時に、電話機や G Ⅲ F A X、モデムなどを使用することができます。さらに発信者番号通知、識別着信の機能でセキュリティを確保するほか、料金情報通知、再ダイヤル、短縮ダイヤルなど豊富な機能を付加しています。

このターミナルアダプタの機能を活かし、販売情報、POP、広告類、CAD図面のリモート出力、あるいはアップデート情報のタイムリーな配信、カラー画像データの高速転送などが可能となります。



当社では、既に I S D N 端末商品として、フロッピーディスクのデータ転送装置である F D わーぶシリーズ「FDX1」「FDX10E」を製品化しており、今回の製品は I S D N 時代に対応したターミナルアダプタ市場に新規参入するとともに、I S D N ネットワーク構築事業拡大に大きな足掛かりとなる商品です。

＜『STX1』開発の背景＞

現在では情報通信ネットワークの中心となっているISDNですが、ISDNが実用化されるまでは、電話やファクシミリ回線、テレックス、パソコンなど通信形態に応じて回線を作り、別々に運用していました。しかし、この通信形態では、大量の回線を引くことによる回線使用経費の増大やファクシミリやパソコン通信などデータ転送の非効率化などの問題が生じ、日本では日本電信電話㈱が、88年から「INSネット64」を、89年からはさらに大容量のデータを高速で通信できる「INSネット1500」のサービスを開始しました。

「INSネット64」では、加入した1回線で1秒間当たり64キロビットの速度の伝送路を2チャンネル同時に使用することができ、また「INSネット1500」は1回線当たり64キロビットの伝送路23チャンネルで構成されています。これらの高速デジタル回線は通信量の多い地点間では経済的に有効に活用できるという点や短時間で大量のデータを送信できるなどの特長があります。

このISDNによる高速なデータ通信を利用するには両方のユーザーがISDN用のインタフェースを持つ必要があります。このインタフェースが今回発売するターミナルアダプタで、引き込んだISDN回線のメリットをいかに活用するかはターミナルアダプタの機能にかかってきます。



現在ISDNを介して、パソコン同士やハード・ディスク装置、光ディスク装置、レーザープリンタなどの間でデータ通信を行う際、パソコンや周辺機器などからターミナルアダプタへのインタフェースには、本製品で採用したSCSI (Small Computer System Interface) や、パソコン用インタフェースとして大半を占めるRS-232CやRS-422など、いくつかの規格があります。

SCSIは1台のパソコンからハードディスク装置やレーザープリンタなどの周辺機器を最大7台まで接続でき、またRS-232Cのようなモデムによるシリアル伝送に比べると、高速転送が可能な点を最大の特長としています。データ転送速度は、同期式で最大4MB/秒(4メガバイト/秒)は1秒間に400万バイトのデータを送付すること、非同期式で最大1.5MB/秒となっています。すなわち1秒間に64キロビットの高速データ転送が可能なISDNの性能を最大限に活用するにはRS-232Cよりも、SCSI規格のインタフェースが適しており、現在では、イメージスキャナなど他の周辺機器でもSCSIを採用する例が増えてきています。

今回発売する『STX1』は、ISDNのメリットを最大限に活かすSCSI規格のインタフェースを持つ本格的なターミナルアダプタです。

《特 長》

- ① I S D N と S C S I を採用することで、相互のメリットを最大限生かし、パソコンと光ディスク、レーザープリンタなど周辺機器との間のネットワーク構築を低コストで実現します。
- ② I S D N を使用することにより、1秒間に64キロビット(1メガバイトのデータを約2分で転送)の高速データ通信を可能にし、効率的で高品質なデータ転送が実現できます。
- ③「FDわーぷ」など、他の I S D N 端末商品と併用した情報ネットワークの構築が可能です。
- ④発信者番号通知、識別着信(最大10ヶ所)、料金情報通知、再ダイヤル、短縮ダイヤル(最大10ヶ所)などの機能を付加し、モデムを介した通信に比べ、作業の利便化、単純化が実現されます。
- ⑤アナログ機器との同時使用も可能なことから、データ転送を行いながら、電話機や G III F A X、モデムなどを同時に使用することができます。

《価格および発売日》

品 名	品 番	価格(消費税別)	発売日
SCSIターミナルアダプタ	S T X 1	400,000円	10月1日(木)

※使用に際しては I S D N 回線の契約と回線工事費が別途必要です。

初年度販売予定数 : 2,000台

《主な使用例》

例1) リモートプリンティング

販売情報、POP、広告類、その他さまざまな文字、図形、画像を含むカラー情報を遠隔地の S C S I プリンタに対してリモートで出力することができます。

例2) CAD図面のリモート出力

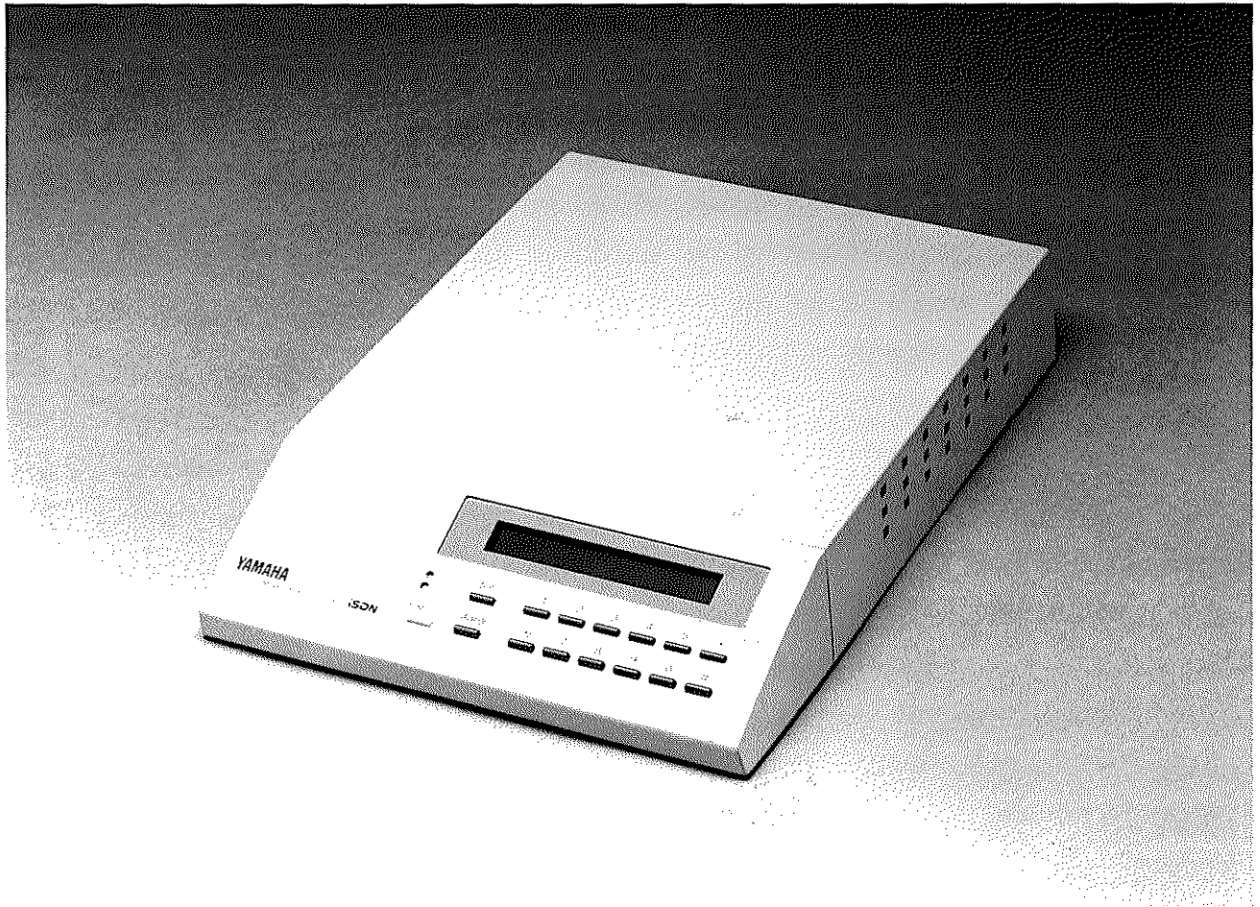
設計されたCAD図面を、遠隔地にある S C S I コントローラを持ったプロッタにより直接必要な場所で出力することが可能です。

例3) ハードディスクなどの大容量データの転送

遠隔地のハードディスクとの間で効率的なデータ転送ができ、大幅な時間短縮ならびに物流の手間を省けます。

《主な仕様》

機能項目		内容 / 仕様	
SCSI インタフェース	接続インタフェース	ANSI X3.131-1986準拠	
	同期方式	非同期	
	パリティ	パリティあり/なし選択可	
	インタフェース構成	不平衡型	
	接続コネクタ	50Pシールド付コネクタ×2	
ISDN インタフェース	適用回線	ISDN(2B+D)…1回線(INSネット64)	
	通信プロトコル	ISDN通信プロトコル	
	ビットレート	192Kbps	
	通信機能	再ダイヤル	可能
		短縮ダイヤル	最大10ヶ所
		識別着信	最大10ヶ所
		発信者番号通知	自己アドレス設定可
料金情報通知		課金情報を表示	
装置状態監視/ 表示機能		LCD: 24桁×2(LEDバックライト付) LED×2(SCSI/TEL) 課金情報表示 発信者番号通知、サブアドレス通知、 通信識別表示、通信状態、装置状態表示	
アナログポート	接続インタフェース	アナログ端末を接続可能(6pinモジュラージャック)	
電気/構造関係	使用電源、消費電力	AC100V、50/60Hz、7W	
	外形寸法、重量	225(W)×320(D)×53(H)、2.2kg	
	自己診断機能	電源ON時に自動的に自己診断を行なう。	
	保管環境条件	周囲温度0~40℃、周囲湿度30~90%(結露なきこと)	
	動作環境条件	周囲温度5~35℃、周囲湿度35~85%(結露なきこと)	



SCSIターミナルアダプタ『STX1』

(価格=400,000円<消費税別>)